恵飛良歌仙

863
141

国立国会図書館　タイトル『恵飛良歌仙』　請求記号 863-141

ガラス使用

為樂莽遺稿

恵飛良歌仙

全

為樂菴

長月菴

両吟

八六三一四一

恵飛良歌仙序

雪川は齢五十かして満る八影西
と物ちて六芝をたゆく
厥の下五弓は上ちて法もりて
八十云孫七ゆ四孫を負て四生
の界ちて弱ち此歌仙を補ひ
徒〻全く十方便ちなり十才

国立国会図書館　タイトル『恵飛良歌仙』　請求記号 863-141
ガラス使用

の諸門人に授ける仏像の六時
讃嘆かとり形〳〵四時の見えて
せた法界の相をあらはす熟度量
こゝ如来なり

清秋

凡例

一此歌仙は両君あるこゝ後の高吟の神〳〵なる
勢のまこと〳〵なるこゝろ撰集ふ其を活居公
も為めをこゝ所つ業好きこゝろ頼みこゝろ陳
ありこゝろ

一百家の撰集る八題集八所謂神祇釈教慈無常
述懐旅祝小諸君子の発句を乞入こゝ八題集なり
こゝ八家の七つに名所軍都こゝを加へこゝ歌仙

国立国会図書館　タイトル『恵飛良歌仙』　請求記号 863-141
ガラス使用

形見なる人形の八題を集めて巻編ごとに題
一　式部仙雪思し侍るに巻ごとに再巻又いれさし
ぬるもとの組ぶかりなるまゝ其孫に秋君ゝゝも一句
一　なるとゝいへる甚所のまゝ蓮如去嫌のつゝ言し
所言のまゝ思しもとし侍せ撰せ仕る事を
なり式部もるをやのうをふたるせゝあるふやうせ
ゝふてゝゝ侍る

其川

神祇

大家司のもの物さゝせ御祓哉　雪川
夕居の遊るも蘆かたゝ夕　清秋
檜の白妙校倉の松陰に　仝
兎もそのの尾を上げて　膳川
月讀の持ぬも菖蒲かな　仝
駒曳銭の耳を取かな　秋

梶姫の移り香とる庭いちう　秋
仏の情愛市物　忌附　川
乙女子の夕化移る里神楽　仝
はるゝ榊に六ッのゝ咲く　秋
咲ひて大中臣を家の風　仝
景か耳妙瑞籬の蘭　川
内陣ハ岩に志るしの杉　仝
月をかせしか御弓箱　秋

蛇の護る乙ッるの肌か鱗あ梨　仝
沉ンう枯る影向の杉　川
散紅葉の花も志ほるの風　仝
詫宣を乞く蛙ひて　秋
潜り出る四陣の簾を巻て　仝
ゆゝ書初る画馬の義家　川
贄傳よ寿の貢れ冷しよ　仝
波の音花を小舟の乙ひ　秋

国立国会図書館　タイトル『恵飛良歌仙』　請求記号 863-141
ガラス使用

言祝ぎ奉る根の松ぞ千歳
へ立ちぬ常盤かの山
御富士を仰ぎ見る亀来る
捧物ぞ捧ぐ世は秋の海
軒を経る藤民の孫移り
八重墻ぞ囲りめぐつる
かぐや姫も宮の祝ふ
玉の輿ぞ村の席順

秋川
仝
秋
仝
川
仝
秋

沸ぎ立ち石風呂の湯を探ぬ
神の古敷の旅ぞ
綱引の称宜交ぐる場

仝
川
仝

貝ぞ吹ぐ七曲の穴
小集楽の舞も調ぶ四社の宮

秋
仝

まぢにまぢ吹く松の琴

川

釋教

僧く鹿いらゝも立てう東大寺　清秋

雲の鈴　雪川

阿字は月眼開きて在明の　仝

肱をこゝろの法依の厚袈裟　秋

あつかれ供養の鐘ふ錢投く　仝

淋ろはらふ布施の餘来　川

ウ

きれ筆を一字一石夏ゝ立姿　仝

ゝも慮恵の果ろをの尾　秋

御修法近里名の御婦音信く　仝

精進のいろ名も世ゝあり　川

年ゝ世の橋を崩ゝ持佛堂　仝

我ゝ菩提樹の西へ枝ゝ　秋

いのちゝ法彼岸ふ行ゝ　仝

供ゝ高ゝ海を弁い夢ゝ　川

警紙拂ふ今の秋を　川
ちりぬるを小屋も先生飯をする　秋
玉眼を入れて佛に森の涼　仝
滝のぬしを掛る浴室　川
八講の群集岩に山笑ふ　仝
珠数ハらはらも切れて髮　秋
内證くかるも四つ詞堂金　仝
紙屋可室も法の世渡り　川

笑佛の宮宅みるあり向ふ　仝
ふれ忌口ふ　秋
院　早ちめく母の参詣　仝
京を出て四山　川
月の洲乳戒檀塔の嵐　仝
ゝも法味ゝ包む佛手柑　秋
允字書く墨形に接る白ゝ　仝
衣の下い鎧ゝ衆徒原　川

人入まぬ宮の皇居の伽藍跡　川秋

閼伽井のつゆ〳〵餘る小菅　仝

ゆるぎなく菩提ふもとの西東

室町殿の佛之眛　川

木像不動せるの如く　仝

普茶とゝ吐せる禪のおもゝ　秋

もゝのゆりゐ被ゆ花をうし誘向　雪川

初ゝ寺詣り指を海棠　清秋

出代ふ住まゝ女のゝ清水寺　仝

筒井清ゝく炊ぎ桶　川

ゆ上詣ゝ傳馬移りて月の朔　仝

袖口ゝ泣ゝる肌ゝ　秋

南天の実童の嘴を吐ちし　秋川

おもたき実眉の上に落る風　川

使もなく空なる烏帽子だに　仝

昼ふかく美を点ずる問きく　秋

あの嘉いやれ表の深きまま　仝

沛未刻参ふ舞撰置く　川

詫くり恵訊ひまむ　仝

脛こそ痒しの厂の鐸　秋

さまを歩かくふ侍ねの浅町　仝

ゆしし海を志れ編笠　川

曳く袖も仙こそ形ふ夏衣　仝

下借猶ふ人へぬ目のもち　秋

中ふ中ふ涙の悔〳〵　仝

子家なり紫冠の法の添　川

きりしの鉦を熱き市法橋　仝

ゆの仇きの童力孫ンきハ　秋

ゐを　くく氏の梅枝も新し　秋
御所造り新し　城のたく向　川
籟も新奇のもの　なるやた　仝
ゆかしてゐる　膚の　秋
呉服　様の代　接も多の　仝
内野　北野　時　川
月も　流れも　仝
枯れ　糸仏　容の　秋

三月　月の時　難の　時　仝
墨絵　鏡　窓の　貧しき　川
夢の　出　鰯の　穴　仝
母宿　願も　我いの　秋
花　二八の　油　蜜　仝
見　踏　蛙　川

無常

あはれ蟬鳥の聲か帰りてもとの清秋

ちりぬる色をなにとかはまもきく雪川

世の中の川美ふ橋の墻ぬくく今

志ひむ結ひて月越しを待秋

世の中や水ふ月ぬて骨納め今

碑の銘法とふ霊のたうなる紀川

ウ

新盃を酒を斬の有さやしきき今

かたくの艶を見ぬ孔雀秋

あれかく年ハ制ア美女乃面川

箸の形をかしひたる左右秋

文字形くたき名ふ有へ仏の未川

記念塊ふ炷きたる香秋

世かしたしたくもいふ世ふ厩川

ものなとものたとて寂しお秋

長髪を素食等のちるおもかる　川
二十四時八屋の棟の蝶　秋
色高砂の色の用ひは北斗　川
ちるとはなれ枝を今の茶毗の火　秋
二
妻ゝ先へ行くあるハ夢の影　仝
繁刈る夢のきゝも悲しま　川
一枝の雪ちるなれ中ちるし　秋
紅もく墨のにしも雁　川

涙ちるあの命の魂ゝ仏の金の屋根　秋
終焉の際の議仏軍配　川
さゝもとさゝ塚墨へ走ちる　秋
宵の中影の消くゝ雲の孫　川
合掌の影ゝ縄の太刀の下　秋
学ぶの学の墨の墨ゝ雲屋　川
世の世の死水盃月を海　秋
棺出しゝ仏の冷ゝ　仝

まるくなる遠書も流るく九寸ばかり　秋
ちりを知るく駝鳥の毒の毒　仝
流離の姫ぬるい毋ぬれ　仝
霊供ぬるく仏魚味の新膳　仝
見るもいい流れ番所の殯　仝
ぬるく浄土ぬる音楽　仝

述懐

捨人を見果ぬ夢を結ぶ念　雪川
むしゝい冬を岸ぬ重ゝ女　清秋
まゝはやいやなるの秋強く　仝
ぬるんぬる置ゝ数寄屋住ぬ　川
月の客屋の灯ぬ侯ぬ形ぬ　仝
心の杖ぬ碁ぬ負ぬる　秋

第一の眼鏡方寸の
弓箭、節分の姿
うれしかりし其日金
毎年の後年
京洛の溝を浴
二年も十七の癘
嚙み持掌任金も
未席より出世案内

川
秋
川
秋
川
秋
川
秋
川
秋

ゆきもん堂番いもの
其面の富の
昔せしは海を
手形をきれ針の柄
逐電の沙汰
今文翠入定
怒りの
貢ハ山

川
秋
川
秋
仝
川
秋
川

一業ハ恨ミて書を繰る

法師形や樹下の陰に

武士ものゝふ今ハ柘榴もあるとも道

買ふ〳〵合せ〳〵難の末かな　秋川

猶吟の謡ものゝ蒸湯を飲　秋川

嘗めぬ蛇を噛む生の魂　川

見れば見も修羅を仏と斬れば芋　秋川

なるなれと形ひ〳〵四位の秋の蛍　川

ウ

螺ぬかみ埋蛍幾ハ仏の屋の

同じ家ずも健忘の母　秋川

法ものゝ横ハまゝて仏の雪　川

四位出代ハ色を替る蛍　秋川

いつもまゝ形ふ義の母の命　仝

檀の雑ものゝ梶　仝

旅

春ふかき所の星や芦の雨　雪川
ふるさとの蓬さかりの貴船　清秋
此夕翠の道寄指ふる事　仝
良ト冷て酒をぬる　川
春雨を岡屋の松の強き日　仝
深草の小原立ちの弼　秋

ウ

出女は鬼灯吹く宿はゐる　仝
繋ぎたる舟に川の春　川
看板のおいらん藥も月下て　仝
問屋の迹に雪の降　秋
仏壇の光ひろまる春　仝
小鮎田螺も魚屋慶の魚　川
傳奏の泊遊まる夜　仝
人足解て宵を寒　秋

[illegible] 駿河原　秋川

鎗ゝ通ると云ふを云ふも　川

月うけて格拵ひる代官所　仝

玉江　鳴千毛見を云立　秋

合力も仇を尋る秋うとて　仝

馬さえ嘶ひぬ浦分の餌　川

木枯の吹風義しく御油縄を　仝

かせあるて行る悔しきう　秋

代ゝ[illegible]れ場札　仝

五風吾法ゝ　棒端ナ乃川　川

[illegible]毛君ゝ[illegible]　仝

腔も[illegible]　[illegible]籠動定　秋

[illegible]と[illegible]　[illegible]給那ま　仝

化物[illegible]上[illegible]月　川

四霧の立かたし江戸の方　仝

小便[illegible]暫[illegible]出る　秋

日高見、真屋の守護ゝけ　秋川
市の跡ゝく岡丸ゝ門　川
何もなし一稽飯ゝも花の砌　公
もゝく小年おゝ皆　秋
金ゝも虫鈴ゝ懸ゝ刀筒　公
耕ゝく助郷　川

名所

名月や安倍須广の壺　清秋
ゝゝ芳野ゝゝ葛餅　雪川
都ゝ兎ゝの墻ゝ秋も素ゝ　公
物ゝゝゝ出ゝいゝゝゝ人　秋
俳諧棋の白地も外の濱ゝ　公
駕ゝ肌着も十府の美孤　川

打明くる小夜の中山中くに　川
孫くに東くりて雑波女　秋
血に汚と罷も越の舞鳥　仝
酒う金蔵くるの浮橋　川
不二箭波吟ぬ嘉世生浦　仝
越をを初に墨流くる　秋
あしし世の伯母の名くに来ふ尾　仝
壬生のみく蓮ろ荒し嘉飛くも　川

写させ堺の住ん海をくく　仝
茶入い質くに法皇飛ろ川　秋
ふふ孫に数い湯きくの月くも　仝
伊豫簾抑くらきに嘉紙　川
くかふの流流も潮ろをくみ　仝
もくくくくぬ紀くく娘子　秋
あひくくく磐をの嘉世嬢に　仝
種い五深の地底夕新　川

耳成の山新たに成りて　川
胸とやむやで嶺も百日　秋
伽藍の多く成る東方丹波　仝
この方に住馴る庵　川
蓬屋の蒙進る新知恵　仝
妹いまぬ歩巡る山の鹿　秋
和歌浦の廣も来る石女　仝
物新しく成る新寄石　仝

ウ

衣多く出来る新寄所　川
をとこいとかたの橋　秋
足ましく井戸蓋回のすすぎ　仝
指鹿新しく松繁余空　川
花ふるふ羅多とうめの更　仝
名所新しく成る里もあるこの　秋

軍

陣中にて世書くやうの和もい　雪川
月の出更か余すい宮ゼ貝　清秋
人の血注ぐ真弓の紅乾て　公
右手ふ光しるか上業か笛　川
南天の実か紅設か涼しく　公
旗ゆらり打十云の智恵　秋

七書よ全帷幄の中に作あり　公
矢疵の毒を削る　蹇　川
槍数く音志ゆきい　胡唄　秋
美人を乗せる馬鎧　川
御宿朝い嗚咽する夏　秋
箱に入れる風の幕　川
乱妨を止め由緒の社領を　秋
鳳輦張護る武士い誰く　川

胸に有る所二の掾負も申奥　秋
かくるる引茶の仕の川舟　川
月あきらく夜に冥ふし撥櫓　秋
世一倍きれ　みちかう　川
凱陣ふ椎もきに読て奥道　仝
織ふ沈帝も沈を首帳　秋
薩摩も場数功者ふ掃除役　川
蓑　刀　世きれ衆徒の陣参　秋

沈波に帰浸して人法の　川
そもそも形ふを弦　拔ヶ弦　秋
玉の玉玉家沈くかもあう　川
運両端ふ秋を紙きれ　秋
第く高しきに拔ひも破道運　仝
山ろ味方ふ寺く二の足　仝
武家きく厳意ふかゆえう　仝
きまく見遠に変れ逆間　仝

夏陣いとゝも高砂の受惜なり　秋

碁の源なる黒の数劫　仝

第ひ指て指所矢数を枝打置　仝

男駕ゝ高き弱　仝

山流せと碁い今を出る　仝

恵ゆゝ小政元の世　仝

都

日の岡やいかゝ高く濡る車　清秋

御先走りの還幸の鷲　雪川

辻子小路形ゝ琴の月をゝく　仝

なゝしゝく門くゝ鞭　秋

[illegible]の宮く数の馬の戻り馬　仝

刺の太鼓も今か永の秋　川

国立国会図書館　タイトル『恵飛良歌仙』　請求記号 863-141
ガラス使用

ちりもしやいかれうの蕎のこもく飯　川

國物こしの仏御堂　方附　秋

夢ぬかの行る貴和のたるきく　川

四ぬ元ゑ乃今糸屋町　秋

朝いとく風つくたら節　雪振　川

月の輪とう地獄の湯釜　秋

四ゑの地ゑ四ゑしもあたう　川

法華とく志ゑ霊山の能　秋

深水の花い義経　酔狂　秋

猫侍ハむ犬人乃宿　秋

ゑもの王物乃ゆ侍　禿衆　川

りくい度格乃　乙乃　秋

ゑ放しの頭ゑ載て　階ゑ貴　仝

義こめ白ゑ非田寺の蔵　川

四ゑゑ元ゑ四ゑもゑて聖護院　秋

こゑ屋置屋の老ゑ深　川

あかしくらす瀬ふ法形く生ヶ蟻　秋川

押おかぶ惜ぶ夕立の人

草堂ふ札打連の跡やさた　秋川

善峯ふ参ふ行ふは

月見せん丈情ふ田代蕎ふしく　秋川

ゆくも仕形ふ中ふなる下女　秋川

ゆふふ口ふ出ふの後ふ毒　仝

強夕永ハ酢ふ豆納夏　仝

強ふ茅ふ茅ふ油虫ふ　仝

破風ふくく訳のふる廊　仝

こまひふ寮の魚ハ買ふ安ふ　仝

醫学ふ丈謙ふ生奠　仝

学層ハ形ふふふふ蕎　仝

小弓形ふ馴ふ非義人　仝

祝

畝道や苗代時の骨賣　清秋

社日の義や馬の逃初め　雪川

乙鳥や出雲棚に棲しそ　仝

先祖へ房総の尾　秋

鮫や桜の房や　仝

てくの秋や榊聲　川

入船の淺草舟や新走り　仝

ほゝい面変を質の金子　秋

撰ぶみせしく娘を形くさ　仝

贄の秋ゆゝ孫も孫なる　川

鞭ひしい十星の風の夢　仝

先祖の矩の門を中の秋　秋

ものもをへ贈位の氏の神　仝

許しの蕃や出下馬札　川

霧故に浦を奉行の袖振り　川
孝のゆゑし兄弟の　秋
様あらく孫ゆくまくの　仝
市の賣を変る栗芋　川
野分せぬ松の秋ふ仙　仝
親子一所の手賀沼　秋
千本に松ぬぎ杉　仝
樽抱し酒の吉日　川

初鶯の来る回り守　仝
咽を極めし夢の白銀　秋
検校ゆかりの玉の琴　仝
夢覚ませんりの已花　川
形く仙家の洞の菊茸　仝
忙を横の松の取場　秋
兄弟の名の呼名をとる　仝
鶯鳴く風をいとの雪　川

国立国会図書館　タイトル『恵飛良歌仙』　請求記号 863-141
ガラス使用

[illegible]出の[illegible]所新タ建　川

回[illegible]信[illegible]丸猪の公夏　秋

瘤[illegible]改[illegible]の新[illegible]茶　仝

敵[illegible]貫[illegible]の妖　川

侍　女[illegible]花[illegible]裏　仝

[illegible]賦[illegible]温泉[illegible]春　秋

跋

粤[illegible]集形[illegible]父[illegible]机[illegible]跋

[illegible]此一冊を何[illegible]

汝[illegible]名[illegible]父の[illegible]

を[illegible]稗[illegible]

[illegible]樂の[illegible]文夏を[illegible]

外[illegible]武備を好[illegible]

四六の数[illegible]二十四[illegible]合

863
141

14193

貢征矢とゝて與傳恵比良哥僊ゝ

文化紀元歳次
甲子七月　田芳舎　其香ゝ

国立国会図書館　タイトル『恵飛良歌仙』　請求記号 863-141

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『恵飛良歌仙』 請求記号 863-141

ガラス使用